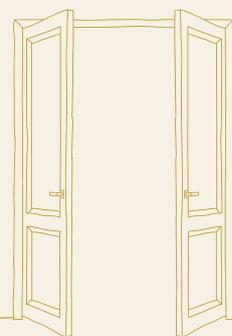


# 私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.45



## お役に立てる喜びから 定年退職後、 キャリアコンサルタントに



キャリアコンサルタント **西川 明宏さん (66歳)** 2014年定年退職

【にしかわ・あきひろ】大学卒業後、医療機器メーカーに入社。定年前の15年間は人事総務を担当。60歳で定年退職後は、現役時代の経験と定年直前に取得したキャリアコンサルタントの資格を活かし、学生さんから中高年の方まで色々な方の就職支援をしている。

—西川さんは医療機器メーカーを定年後、キャリアコンサルタントになられたそうですが、定年後のライフプランは何歳頃から描かれていたのですか。

57歳くらいから考え始めました。65歳まで再雇用で働く選択肢もあったのですが、新卒で入社した会社でしたので、さすがにもう十分貢献しただろうという思いと、一つの会社の世界しか知らずに一生を終えるのは嫌だという思いから、退職することにしました。とは言え、60歳での再就職が厳しいことはわかっていたので、それまでの経験や知識を活かせる分野で、やりたい仕事だけをしように決めました。

—キャリアコンサルタントとは、具体的にどのような仕事ですか。

働く人の仕事やキャリアに関連した色々な悩みや相談ごとに対応し、仕事を通して個人がより良い人生を歩むお手伝いをする支援職の一種です。学生さんの就活支援から、社会人の方の転職支援、職場内での色々なお悩みまで対応しますが、実際には心のお悩みというより応募書類の添削や面接対策などをしてほしいという実践的な依頼が多いです。

活躍の場としては、大学のキャリアセンターやハローワークなどの公的支援機関、人材系企業、大企業内のキャリア相談室などで勤務する他、フリーランスとしてやっている方もいます。

—キャリアコンサルタントという職種について、初めて知ったのはいつですか。

定年の2年前くらいです。ただ、当時はまだ国家資格としてのキャリアコンサルタントはなく、その前身である民間資格のCDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）について知りました。

—なぜ、キャリアコンサルタントになろうと思われたのですか。

人事総務担当としてある大学の学内合同企業説明会に参加した時、終了後に残っていた一人の学生さんと雑談をしました。就活のアドバイスのような話をしたのですが、その帰り際に就職課長が私を呼び止めて、「先ほどの学生が、西川さんからとても良いお話を聞けたと喜んでいましたよ」と言ってくれたのです。

私としては単なる雑談のつもりだったものの、話すことで喜んでもらえる、役に立てるということがとても新鮮でした。直接誰かの役に立つて感謝してもらえる。シンプルなことですが、それまでの会社での仕事では得たことのない喜びでした。それから、こんなことが仕事にできたら素敵だろうなと思うようになりました。

—キャリアコンサルタントになるには、どのような資格取得が必要なのでしょう？

国家資格の「キャリアコンサルタント」が必要です。就職に関する相談に乗るだけなら資格はなくてもいいのですが、「キャリア



自治体の就職相談コーナーでカウンセリングも行う

「アコンサルタント」と名乗ることはできませんし、会社や組織に採用されて仕事を得るにはこの資格が必須と言えるでしょう。私は資格取得のため、認定機関が実施する講座に1カ月通い、筆記試験と実技試験を受けました。実技試験にはロープレ（役割練習）がありますので、講座の仲間と練習会をしたり、別の対策講座に行ったりしました。

——現在、キャリアアコンサルタントとして、どのような仕事をされているのですか。

神奈川県のある就職氷河期世代の方の就職支援プロジェクトに参加して、35歳～50歳の方のカウンセリングや講座運営をしています。雇用形態は、事業を受託している人材系企業に契約社員として雇われる形です。この仕事を主に、副業的にフリーランスをしています。

——フリーランスで働く場合のメリット、デメリットを教えてください。

メリットはあらゆる点で「自由」だということ。仕事の量もやり方も時間もすべて自分で決められます。誰かの指示で、やりたくないことをやる必要はありません。

デメリットは、「不安定」だということです。雇われれば定年まで毎月の給料が保証される会社社員とは対極にあります。すべてが自己責任です。

——やりがいは、どんな時に感じられますか。

クライアントから相談して良かったと喜ばれ、感謝された時です。「おかげで内定を得た」「自分のやりたいことがわかってきた」そうした声を聞くと、お役に立てて良かったと思います。シンプルですが、それに尽きます。人事総務担当時代、学内合同企業説明会に行ったあの日、学生さんに喜ばれたその感動を日々味わうことができるこの仕事に就けて、幸せだと感じています。

——大変なことは、どんなことですか。

好きなことをしているので仕事そのものは大変だと思いませんが、強いて言えば、仕事を得ることが大変です。日本ではまだキャリアアコンサルタントの認知度が低く、相談したい需要は間違いなくあるものの、そうした人とキャリアアコンサルタントを結びつける仕組みが未整備だからです。

「資格を取った方がいいが、これだけでは食べていけない」という声は仲間内からよく聞きます。また、フリーランスでや

るには、どうやってマネタイズしていくのか、いわゆる営業力ですが、そうした別の努力が必要です。

——今後やりたいことは、どんなことですか。

キャリアアコンサルタントとしてはもう6年間やってきましたので、今後はそれに拘らず仕事を探していきたいと思っています。拘らずとは言うものの、キャリアアコンサルタントの仕事で培った経験やスキルを活かせる仕事で、単に仕事の相談に限定しないということです。

具体的にはまだありませんが、幅広く、人が幸せになるための支援をしていきたいと思っています。また、年齢も67歳になりますので、自分の人生も大切にしながら、無理なく働いていきたいです。

——最後に、30代～50代の読者に向けてメッセージをお願いします。

多くの方は、現在の仕事に一生懸命取り組んでおられると思います。それはとても幸せなことだと思いますが、終身雇用の崩壊が叫ばれ始めている今、現状がこの先もずっと続く保証はありません。

一度立ち止まって今までの仕事や人生を振り返り、自分が持っているスキルや経験を棚卸ししてみてください。それが会社の外に出て通用するあなたの本当の財産であり、先の見えない世の中で、あなたが生き抜いていくための武器になります。

——お話をいただき、ありがとうございました。